

The Liturgy TIMES

12月号

発行：12月24日（木） 編集：ラファエラ・マリアセンター リタジーグループ



今年はおうちで！ 世界のクリスマス

例年とは違う12月だが、こんなときだからこそ家にいながら世界のクリスマス体験してみたらどうだろう。今回は坂田奈々絵先生（文化史学科）の監修の下、世界のクリスマスの過ごし方を紹介する。

クリスマスの由来

クリスマスの語源は、キリスト(Christ)のミサ(Mass)といわれている。

キリスト教では、神が人間を救うためにイエス・キリスト遣わしたとされている。クリスマスは、救い主であるイエスの降誕を喜ぶとともに、人間の罪を赦すためにイエスを遣わした、神の愛や恵みに感謝

する行事といえる。

そんなクリスマスだが、実は12月25日はイエスの誕生日ではない。この日が



▲イエス誕生（清泉のプレゼピオ）

クリスマスと言われるようになったのは、太陽信仰の性格を持つミトラス教の「不

滅の太陽の降誕・顕現の日」に由来する。

それが行われるのは冬至、つまり12月25日。そこでキリスト教徒はイエスを光に喩え、「光（＝太陽）の誕生はキリストの誕生」とし、この日をクリスマスとした。

というわけで、キリスト教徒にとってクリスマスはイエスの誕生日ではなく、「イエスの降誕を記念する日」なのだ。（史2・高橋）

摩訶不思議！？ 世界の風習

世界には一風変わったクリスマスのごし方がある。

メキシコでは、子どもたちがお菓子やおもちやの詰まったくす玉「ピニャータ」



▲日本でも流行る…かも？

を割って遊ぶという習慣がある。レバノンではクリスマスツリーの代わりに、豆から出てきた芽を飾ってお祝いをする習慣がある。ウクライナではクモの巣が幸せを運んでくれると言われ、クモがクリスマスの象徴とされている。

ちなみに、日本人にとって馴染み深い、クリスマスにフライドチキンを食べる習慣は、海外から見たらと変わっているらし

い。（史3・岩崎）

あま〜いひとときを
クリスマススイーツ

イギリスのクリスマスに欠かせないスイーツといえば、クリスマスプディングである。名前は「プディング」だがプリンとは違い、濃厚なケーキのようなものだ。



▲ドライフルーツたっぷり

クリスマスプディングにはジンクスがある。それは、「プディングからコインが出てきた人はお金持ちになれる。指輪が出てきた人は結婚できる。指貫が出てきた人は結婚できない（ので、縫い物は自

分でしなさい）」というもの。今年はクリスマスプディングを手作りして、家で楽しんでみてはいかがだろうか。（史2・高橋）



例年、この時期の教会では通常のミサや礼拝のほか、コンサートやイベントを行うところも多い。今年は大々的なイベントを行わない教会もあるが、お近くの教会でイベントがあれば、感染対策をした上で足を運んでみるのもいいだろう。また、19日（土）からは学内クリスマスミサの動画が配信される。「やっぱり外は心配！」という方も、家でミサにあずかってみよう。（史2・高橋）